

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 26 日現在

機関番号：31302

研究種目：新学術領域研究(研究領域提案型)

研究期間：2009～2013

課題番号：21119007

研究課題名(和文) 社会保障・労働政策の分析

研究課題名(英文) Analysis of Social Security and Labor Policy

研究代表者

片瀬 一男(KATASE, Kazuo)

東北学院大学・教養学部・教授

研究者番号：30161061

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 19,800,000円、(間接経費) 5,940,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、社会階層による健康格差の解明ならびに社会関係資本や社会保障制度が健康に及ぼす影響の解明を目的として行ってきた。そのために、A01班の提供する多目的共用パネル調査のJ-SHINEとJ-HOPEのデータの分析をするとともに、2011年には福岡市で、また2012年には仙台市で若年層(25歳～39歳)を対象とした郵送調査(「仕事と健康に関する市民調査」)を行った。その結果、正規雇用では、ストレインが長時間労働を職業性ストレスに媒介すること、また非正規雇用では雇用・労働条件の悪さ以外に、「非正規である」という認識自体がある種のスティグマとして健康に影響している可能性があることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The purposes of the preset study are follows:(1)examining health disparity by social stratification:(2)elucidating the influence of social capital and social security system on health.We have analyzed the data from J-SHINE and J-HOPE, multipurpose shared panel survey, provided by the A01 team

Furthermore, we also conducted mail survey, named "Citizen survey on health and work",targeting young workers aged from 25 to 39 years old in two places:one is in Fukuoka City in 2011,and another in Sendai City in 2012.Using the data from "Citizen survey on health and work", we revealed that strain mediated working long time and occupational stress among regular employees, and that health conditions among precarious employees were negatively affected not only by their poor working conditions, but also by the stigma of being labeled "non-regular".

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：社会階層 健康格差 社会関係資本

1. 研究開始当初の背景

本研究では、社会階層によって健康格差が生じるメカニズムを仕事の条件によるストレスの差異といった観点から検討した。というのも、近年の労働条件の変化に注目するならば、労働市場全般において非正規労働者が増大する形で雇用形態が多様化することによって、労働時間が二極化しつつあるといわれるからである。すなわち、正規雇用者の労働強化がすすむ一方で、仕事への自律的コントロールを欠いた非正規雇用者が増加する状況のなかで、どのような階層・どのような仕事の条件がストレスを増大させているのか明らかにしようとした。

実際、こうした社会階層の生成や階層間移動に影響する社会経済的要因を明らかにすることは、社会学の大きなテーマであり、わが国においても「社会階層と移動に関する全国調査(SSM調査)」などの蓄積が図られてきた。同調査でも近年、階層化とそれに伴う健康の格差についても注目が集まり、2005年調査(およびこれに付随して行われた2006年の「若年層調査」)では、格差社会における健康の問題が取りあげられ、企業規模や職場などの集団特性が、労働者とくに若年労働者の健康に関連をもつことなどが知見として得られているが、まだ未解明の問題も多い。

2. 研究の目的

上記のような状況を踏まえて、社会階層によって健康格差が生じるメカニズムを仕事の条件によるストレスの差異といった観点から検討することが本研究の目的であった。とりわけ、上述のように、企業規模や職場などの集団特性が、労働者とくに若年労働者の健康にどのように関連しているかについて、未解明の点を明らかにしていく。その際、社会関係資本や従業上の地位(正規・非正規)職歴(離職理由など)がメンタルヘルスに及ぼす影響を明らかにしていくことを目的とした。

3. 研究の方法

(1)2009年度:2005年SSM調査データの再分析などから、研究課題の明確化に努めるとともに、

A01 班の多目的共用パネル調査の質問紙作成に協力した、また、2月26~27日に仙台で社会階層と健康に関する研究交流会を開催した。

(2)2010年度:A06班独自調査の枠組みを検討し、予備調査票を作成した。主要な調査項目は、若年層の労働条件とメンタルヘルス、社会参加、生活習慣心理項目(ソーシャルスキル、主観的幸福感など)である。そして、2011年2月10日から3月8日にかけて、仙台市在住の25歳から39歳の男女1,000名を対象に郵送法による予備調査を行った(有効回収数352票、有効回収率35.2%)。また3月9日には、桜美林大学四ツ谷キャンパスにて、A04班との合同研究会を行い、社会関係資本と健康に関する情報交換をおこなった。

(3)2011年度:多目的共用パネル調査データが使用できるようになったので、このデータを分析し、定例研究報告会での報告を行った。また、8月6日、7日の両日、東京大学で開催された「社会階層と健康国際会議2011」に参加し、口頭・ポスターによる報告を行った。さらに、2012年2月10日~28日にかけて、福岡市在住の25歳から39歳の若年層男女5,000名を対象に郵送法による調査を行った(有効回収数1,258票、有効回収率25.1%)。

(3)2012年度:10月24日~11月19日にかけて、仙台在住の25歳から39歳の若年層男女5,000名を対象に郵送法による若年層調査を実施した(有効回収数1405票、有効回収率29.1%)。また、多目的共用パネル調査データJ-SHINEのデータ分析が進んできたので、11月3日4日と札幌学院大学で行われた第85回日本社会学会大会で共同報告をした。

(4)2013年度:8月31日、9月1日に東京大学で開催された「社会階層と健康国際会議2013」に参加し、口頭による報告を行った。また、福岡および仙台調査をもとに、10月12日13日に慶應大学で行われた第86回日本社会学会で共同報告を行った。

4. 研究成果

(1)職業性ストレスの規定因

2005年SSM調査(「社会階層と社会移動に関する全国調査」)のデータ分析から、職業性ストレスの規定メカニズムに関しては、男性の若年正規労働者における労働時間の長さが努力-報酬不均衡を高め、これによっ

て職業性ストレスが生じていることが確認できた。

(2) 中高年の健康格差とライフスタイル

2005年SSM調査のデータ分析から、社会階層と中高年(35-70歳の有職者)の健康格差を媒介しているものは、ヘルスリテラシーによって健康的なライフスタイルを獲得・維持することであることがわかった。また、学歴はヘルスリテラシーを高め、健康維持行動を通じて、健康に影響すると考えられた。

(3) 健康関連理由による離職の社会格差

2005年SSM調査の職業経歴情報から、健康関連の理由(病気、事故等)による離職を生み出す要因と、その後の影響を分析した。その結果、健康関連の理由による離職には、年齢や性別といった基本的な属性の他に、学歴(低学歴層で生じやすい)、職業(販売・事務、ブルーカラーで生じやすい)、従業上の地位(非正規で生じやすく、自営で生じにくい)、企業規模(官公庁は生じにくい)が影響する。また、健康関連の理由で離職した場合、次の仕事が見つかりにくく、前の仕事に比べて収入が低下する確率が高い。健康関連理由によって生じる不平等を低減させるために、制度的サポートが重要であることを示唆している。

(4) 若年労働者の仕事のストレイン

2011年の仙台若年層調査から、25-39歳の若年労働者の仕事のストレイン(要求度とコントロールの比)を検討したところ、仕事のストレインと仕事のコントロールには職業階層による有意差はなかったが、要求度は専門職で有意に高くなっていった。ブルーカラーでは、正規雇用より非正規雇用で仕事のストレインが高くなっていった。若年の専門職は要求度が高いにも関わらず、コントロールが高くないために、仕事のストレインが有意に高くなっていることが明らかになった。

(5) SOCの規定因としてのJDC

非正規雇用であることは、仕事に対するコントロールの低さを媒介に把握可能感や処理可能感、有意味感からなるSOC(Sense of Coherence)の低さをもたらしていること、また要求度とコ

ントロールの交互作用も有意であったことから、仕事の要求度の高い条件下でコントロールも高い「アクティブ」な仕事の条件は、SOCを高めることが示唆された。

(6) 集団参加の自律性がSOCに及ぼす影響

集団参加の自律性がSOCに及ぼす影響を検討したところ、非自発的な集団所属は、基本的にSOCを低下させていなかったが、自律性仮説も支持されず、集団参加の自律性はSOCには関与していないことがわかった。

(7) SESと健康の相互作用

高いSESは健康状態を高めるが、健康に問題を抱えた人は高いSESを獲得しにくいこと、さらに就職以前の家庭環境が健康悪化離職に影響している可能性が示された。

(8) 親の階層と子どもの生活習慣

親の階層から健康に関する生活習慣のいくつかは親世代の要因の効果であるように思えたが、一貫した親から子どもへの伝達は見られなかった。ここから、まず、生活習慣が伝播するものか否か、また、子ども時代には伝播しにくいのか、などを考える必要がある。

(5) 受診行動の性差

男性は就労率は高いために、職場での健康診断の受診により、自分の健康状態について最低限の把握はできているといえるが、特に有配偶女性については無職の者も多く半数以上が健康診断を受診していなかった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計23件)

片瀬一男、SOCの規定因としての仕事の条件、人間情報学研究、審査無、18巻、2014年、13-38.

片瀬一男、「社会階層と健康」への学際的アプローチ、審査無、11号、2013年、107-112.

木村好美、健康診断の受診と社会階層 早稲田大学大学院 文学研究科紀要5(1)、査読無、2012年、35-44

中田知生、高齢者における健康満足度の推移と社会階層、医療と社会、査読有、22(1)、2012年、79-89.

塩谷芳也・金澤悠介・浜田宏 ビネット調査による階層帰属メカニズムの検討 理論と方法、査読有、Vol.27、No.2、2012年、243-228

Aida J、Kondo K、Hirai H、et al. Association between Dental Status and Incident Disability in

an Older Japanese Population. J Am Geriatr Soc、査読有、No60. 2012年、338-43.

Wakaguri S, Aida J, Osaka K, et al.

Association between Caregiver Behaviours to Prevent Vertical Transmission and Dental Caries in Their 3-Year-Old Children. Caries Res 査読有、Vol.45、2011年、281-6.

Hanibuchi T, Aida J, Nakade M, et al.

Geographical Accessibility to Dental Care in the Japanese Elderly. Community Dent Health 査読有 No23.2011年、128-35.

片瀬一男,「中高年における健康格差 - ライフスタイルの媒介効果」佐藤嘉倫編『現代日本の階層状況の解明 - ミクロ-マクロ連結からのアプローチ 第3分冊 社会意識・ライフスタイル』(科学研究費補助金 基盤研究(A)研究成果報告書)、審査無、2011年、189-204.

Aida J, Kuriyama S, Ohmori-Matsuda K, et al.

The Association between Neighborhood Social Capital and Self-reported Dentate Status in Elderly Japanese : The Ohsaki Cohort 2006 Study. Community Dent Oral Epidemiol 査読有 Vol.39,2011年、239-49.

Aida J, Kondo K, Yamamoto T, et al. Oral

Health and Cancer, Cardiovascular, and Respiratory Mortality of Japanese. J Dent Res 査読有 No.90,2011年、90:1129-35.

Aida J, Kondo K, Kondo N, et al. Income

Inequality, Social Capital and Self-rated Health and Dental Status in Older Japanese. Soc Sci Med、査読有、No.73,2011年、1561-8.

中田知生, ソーシャルキャピタルと生活困難の関連 - マルチレベルモデルを用いた分析から北星論集、査読無、第48号、2010年、59-69

塩谷芳也, 高校生の性行動とセルフ・エスティーム 社会学研究、査読有、88号、2010年 1-26.

〔図書〕(計 1件)

片瀬一男,「中高年の労働条件とストレス」斎藤友里子・三隅一人編『21世紀の階層システム 第3巻 流動化の中の社会意識』東京大学出版会,2011年,159-172.

〔学会発表〕(計 20件)

片瀬一男, 社会階層と健康(1) : SOCの規定因としての仕事の条件、第85回日本社会学会大会、2012年11月3日、札幌学院大学.

塩谷芳也「社会階層と健康(2) : 社会的ネットワークとSOC、第85回日本社会学会大会、2012年11月3日、札幌学院大学.

神林博史, 社会階層と健康(3) : 職歴と健康の相互作用の分析」第85回日本社会学会大会、2012年11月3日、札幌学院大学.

中田知生, 社会階層と健康(4) : 子どもの健康行動への親世代の効果、第85回日本社会学会大会、2012年11月3日、札幌学院大学.

木村好美 社会階層と健康(5) : 健康管理と社会階層、第85回日本社会学会大会、2012年11月3日、札幌学院大学.

神林博史, 社会階層と健康(1) 若年層における非正規雇用と健康の関連、第86回日本社会学会、2013年10月12日、慶應大学

中田知生, 社会階層と健康(2) 出身家庭の子どもへの健康行動への影響、第86回日本社会学会、2013年10月12日、慶應大学

片瀬一男, 社会階層と健康(3) 若年層における仕事の条件と職業性ストレス、第86回日本社会学会、2013年10月12日、慶應大学

中西泰子, 社会階層と健康(4) 若年男性の心理的健康に対する婚姻状態の間接効果、第86回日本社会学会、2013年10月12日、慶應大学

盛山和夫, 社会階層と健康(5) 高齢者における健康の所得格差要因の分析、第86回日本社会学会、2013年10月12日、慶應大学

Nakata, T., The Trajectory Analysis of Depression and Life Event: Using Latent Class Growth Models, 64th Annual Scientific Meeting, SLLS, 2012, October, France

Nakata, T Socioeconomic Differences in Health Behaviors in Japan: ICBM, 2012, August-September, Hungary

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

片瀬 一男(KATASE, KAZUO)
東北学院大学・教養学部・教授
研究者番号：30161061

(2) 研究分担者

盛山 和夫(SEIYAMA KAZUO)
関西学院大学・社会学部・教授
研究者番号：50113577

(3) 研究分担者

神林 博史(KANBAYASHI HIROSHI)
東北学院大学・教養学部・准教授
研究者番号：20344640

(4) 研究分担者

木村 好美(KIMURA YOSHIMI)
早稲田大学・文学学術院・准教授
研究者番号：90336058

(5) 研究分担者

中田 知生(NAKATA TOMOO)
北星学園大学・社会福祉学部・准教授

(6) 連携研究者

堀毛 裕子(HORIKE HIROKO)
東北学院大学・教養学部・教授
研究者番号：90209297

(7) 連携研究者

鈴木 宏哉(SUZUKI KOYA)
東北学院大学・教養学部・准教授
研究者番号：60412376

(8) 連携研究者

相田 潤(AIDA JUN)
東北大学大学院・歯学研究科・准教授
研究者番号：80463777

(9) 連携研究者

坪谷 透(TSUBOYA TORU)
東北大学大学院・
研究者番号：

(10) 連携研究者

中西 泰子(NAKANISHI YASUKO)
相模女子大学・人間社会学部・准教授
研究者番号：50571650

(11) 連携研究者

佐々木 洋子(SASAKI YOKO)
大阪市立大学大学院文学研究科
都市文化研究センターUCRC 研究員
研究者番号：70647833

(12) 連携研究者

塩谷 芳也(SHIOTANI YOSHIYA)
東北大学・知の創出センター・特任助教
研究者番号：